

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原 6-7-1

TEL:092-661-1531

<https://shinkenko.jp>

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十九年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

幸運の秘訣

この事について私は以前もかいた事があるが、今日の世の中を見れば見る程不幸な人があまりに多いので、一層徹底的に書いてみるのである。いうまでもなく、昔から人間の運不運程やつかいな問題はあるまい。誰しも人心がついてから死ぬまでの間、この考えから離れられないのが人間としての必然性であろう。というのは、最も分かりたいと思う事ほど、最も分りにくいのが世の中の常であるからで、少しでも分かったら、これほど結構な事はあるまい。ところが幸いなるかな、私はこの根本がハッキリ分ったのである。そればかりか、実地経験によっても少しの間違いはないので、ここに確信をもって説くのである。

それについては誰も知る通り、一口に運といっても、これほど茫漠たる捕まえどころのないものはあるまい。しかも自分ではどうにもならないので、あなた任せより致し方がないのは勿論で、これが運というものである。誰かが言った“人生は大賭博なり”とは宣なるかな

である。従ってどんなに偉いといわれる人でも一応は諦めてはいるが、なかなか悟りきれないもので、これが人間の宿命とでもいうのであろう。そこで、何とかして幸運をつかみたい一念から活動も出来る訳である。それがためありもしない知恵を絞り、ほしい、なりたいの苦勞のしつづけで終わるのが人生というものであろう。そうして運ぐらい皮肉なものはない。つかもうとすればする程逃げてしまう。西洋の諺に“幸運のチャンスは後髪のようなもので、通る瞬間つかまないとおしまいだ”というが全くその通りである。

私の長い経験によっても、運という奴に始終からかわれているような気がする。訳なくつかめそうでなかなかつかめない。目の前にぶら下がっているから、手を出すとスリと抜けてしまう。追いかけてようとすればする程、逃足の速い事、全く始末の悪い代物だ。ところが、私はこの運という奴を確実につかまえたのである。だがそれを説明するにあたって困る事には、信仰者ならいざ知らず、一般人にはなかなか分りにくい点がある。というのは物を見る場合、上面だけを見て中身を見ない事で、否見えないのである。ところが運に限って、もとは中身のほうにあるのだから、これが分からなければ運は決してつかめない。という訳は、人間が肉体を動かす場合、肉体自身が動くのではなく、中身にある心が動かすのであるから、幸運もそれと同様、中身が肝心である。その訳を詳しく書いてみよう。

まず右の理を押し広げると、こういう事になる。すなわち上面とは現実界であり、中身と

は心霊界という目に見えない空間の世界である。これがこの大世界の組織であって、造物主はそう造られたのである。故に心が肉体を動かすごとく霊界が現界を動かすのである。しかも一切は霊界が主で現界が従であるから、運といえども霊界にある霊の運が開ければいいので、そのまま体に写り幸運者となるのは勿論である。では霊界というものを一層詳しく書いてみるが、霊界は現界よりも厳正公平な階級制度になっている。それが上中下百八十の段階になっいて、六十段ずつ三段階に分かれている。勿論、上が天国、下が地獄、中間が中有界といい現界に相応している。

こんな事をいうと、今日の人間はすぐに信じられまいが、私は神から詳しく知らされ、その上、長い間霊界と現界との関係を実地経験によつて、底の底まで知り得たのであるから、寸毫の誤りはないのである。何よりもこの理を信じて実行に移し、幸運をつかんだ人は今までに数え切れない程あるばかりか、私自身としてもその一人である。それは私を客観的にみればすぐ分かる。私がいかに幸福な境遇であるかである。

(次頁へ続く)

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 安心出来る日々 息子も元気な笑顔…
- 家族で過ごす感謝あふれる毎日…

そこで今一歩進めて右の段階を説明してみるが、前記のごとく人間の体は現界に、霊は霊界にあるとしたら、百八十段中のどこかにいるはずであって、つまり籍せきのようなものである。しかもこの籍は一定しておらず、絶えず上下に移動しており、運命もそれに伴う以上、人間は出来るだけ上段に昇るよう心がくべきである。いうまでもなく下は地獄界で、病氣、貧乏、争いは勿論、魑魅魍魎ちみもろうりょう、百鬼夜行ひゃくつきやこう、暗黒無明の世界であって、あらゆる苦悩うずまが渦巻うずまいている。これに反し上段へ行く程反対に良くなり、天国浄土の平和光明、健富和の理想境であり、中段は中ぐらいである。

以上のごとく、霊界の籍通りが体に移り運命となるとしたら、霊の地位向上こそ幸運の根本である事があまりにも明らかである。何よりも事実を見ても分かる通り、世間よく出世しゅっせをして人から羨うらやまれるようになり、自分もいい気持ちになって、いつまでも続くとおっていると、豈あに計はからんやいつしか失敗転落、元の木阿弥あみとなる例もよくある。というのは、この理を知らず、人力にのみ頼たよりすぎるからで、しかも人を苦しめ無理をする結果、形だけは成功しても霊は地獄におちているので、霊主体従の法則によりその通りの運命となるのである。そうして霊にも物質と同様重量があり、重ければ地獄におち、軽ければ天国に上がる。昔から罪の重荷おもにというがその通りで、悪の行為は霊が曇り重くなるに反し、善の行為は軽くなり上へ昇るのである。故に人間は悪をつつしみ罪を作らないようにする事で、できるだけ善を行い霊を軽くする事こそ幸運の秘訣である。これが真理である以上、これ以外方法のない事は断言するのである。といつてもなるほど理屈は分かるが、さて実行となるとなかなか難むずかしいものである。ところが容易にできる方法がある。これこそ信仰であるから、幸運を得たい人は何をおいてもまず信仰に入る事である。

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

股関節脱臼の恐れ：

安心出来る日々

息子も元気な笑顔：

広島支部

小田真広おだまさひろ（32）



（写真右より理子さん・誠人さん・真広さん）

私は、両親が新健康協会の会員であったことから、浄霊が身近にある環境で育ってきました。そして私が中学生の時に急性肝炎にかかったのですが、この時も浄霊を受けて良くなりました。そして、平成二十一年五月五日、私は十五歳で入会しました。おかげ様で、その後は肝炎の再発もなく元気に過ごしています。

◆
今回は、私たちの息子（誠人）のことについての体験談を書かせていただきます。

昨年八月に誕生した息子は安産で生まれ、順調に育っていき、その様子を見てとても安心しておりました。しかし、生後一カ月の検診で医師から「赤ちゃんの股関節の開きが硬いので、別の病院でレントゲンの再検査を受けてください」との診断を受けました。

私の家系は、祖母・父も股関節を患っており、私自身も生まれてすぐ股関節脱臼の恐れがあったため、股関節にベルトを付けていたと両親から聞いていました。もししたら息子も治療や手術が必要となり、万が一完治が出来なければ将来つらい思いをさせてしまうかもしれないと不安な気持ちになりました。

そのような中、広島支部の責任者の方から「浄霊を受けてみたら良いですよ」と力強く言っていたできました。

私自身は十五歳の時に新健康協会の会員となり、妻は令和三年六月六日、二十六歳の時に会員となりました。夫婦ともに風邪を引いたり、身体の不調を感じたりした時は浄霊によって回復してきた体験があったため、息子も浄霊で元気になってほしいと思いました。

再検査は一週間後だったので、その間は支部や家で毎日浄霊をしました。すると、次のレントゲン検査では「股関節脱臼と断定出来る程ではないので、経過をみましょう」と診断されました。その結果に家族全員で喜び、安堵の気持ちになり、引き続き浄霊を続けていくと決心をしました。

現在では週二回は必ず支部に行き、家でもしっかり浄霊をしています。

浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病氣やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

これまでに、股関節脱臼だった子が浄霊で良くなり、走れるまでに回復した話や、乳幼児が患いやすい病氣（アトピー・喘息・発熱・発疹など）が、浄霊で良くなった方の体験談を聞きました。そこで更に浄霊に確信を持つことが出来、大変安心していきます。

息子はまもなく一歳になります。その後の検査でも、医師からは「股関節脱臼ではないので心配しなくていいですよ」と言われました。何事もなく安心して日々過ごせることに心から感謝しております。

他にも、夜間に突然高熱が出たり、鼻づまりで呼吸がしづらくなったりすることもありましたが、浄霊によって翌朝にはいつもの元気な笑顔を見せてくれています。乳幼児は突然体調を崩すことも多いと思いますが、今後も浄霊を受けることで健康でいてほしいと思います。

子供の病氣やケガで不安に思われている方がいらつしゃれば、是非支部に足を運んでみてください。

明主様、誠に有難うございます。
（広島県広島市）

肺の影・出産

家族で過ごす

感謝あふれる毎日…

若松支部

石田真晴 (30)



(写真右より優井さん・末光さん・真晴さん)

私たち夫婦は、幼い頃から浄霊に触れて育ってきました。今は、我が子と一緒に笑ったり、泣いたりしながら、何気ない日々の中に幸せを感じて過ごしています。そんな日々の中で、感謝する出来事がありましたので、お話しさせていただきます。

はじめに、私の体験からお話しさせていただきます。

家族を持つて気づいたこと

私は約五年前の健康診断で、医師から「右の肺の上に小さな影があるので精密検査を受けてください」と言われました。しかし、当時は自覚症状もなかったもので、精密検査を受けることなく日々を過ごしていました。それでも、翌年も同じ指摘を受けましたので、心のどこかに不安がありました。

仕事の忙しさを理由に体の不調にも目を向けない時期が続いていたように思いますが、転職となった出来事がありました。それは家族が出来、子どもが生まれたことでした。「自分の体は自分だけのものではない」と強く感じるようになりました。

このことをきっかけに、休日には家族で支部へ行き、浄霊を受け、何かお手伝いすることがあれば手伝う…ということが習慣になっていきました。また、食事や運動など、日々の生活にも少しずつ気を配るようになりました。

すると昨年の健康診断で、それまで指摘されていた肺の影が、初めて「異常なし」という結果になりました。「精密検査の必要もない」と言われた時は、大きな安堵を感じました。

また、日々浄霊を受ける中で、長年悩んでいた体の凝りも和らぎ、体が軽くなる変化も感じるようになりました。

今回の体験を通して、日々の小さな積み重ねこそが大切であることを知ることが出来ました。そして、その一つひとつに感謝するばかりで、あらため

て、心から明主様に御礼申し上げます。

こうした大切な日々の中で、共に過ごす家族の存在の大きさも、改めて感じるようになりました。

その中で、妻は出産を通して、命の大切さを知る大きな体験をさせていただきました。

この時の妻の体験を妻自身の言葉で、お伝えします。

命を授かって気づいたこと

石田優井 (31)

今から六年前、私は会社の健康診断で、左卵巣に約六センチの腫瘍(子宮内膜症)が見つかりました。医師からは「自然妊娠は難しい可能性が高い」と説明を受け、頭の中が真っ白になりました。ちょうど結婚を控えていた時期でもあり、「どうして自分が…」という思いしか浮かびませんでした。それまで私は、結婚すれば自然と子どもを授かるものだと思っていました。ですが、その時、「母になる未来」を心の中でそっと手放した自分がいました。

その後、家族と話し合い、支部へ行き、浄霊も続けました。けれど正直なところ、その頃の私は「良くなるのだろうか…」と、前向きに受け止めきれずにいました。きつと、気持ちと現実との間で揺れていたのだと思います。

そんな中、結婚後しばらくして妊娠が分かりました。嬉しいはずなのに、「本当に大丈夫だろうか…」という不安が強く、心から喜ぶことが出来ませんでした。妊娠中も、つわりや体調の変化が続き、決して楽な日々ではありませんでした。それでも浄霊を続けて

いましたので、不安が減っていったように思います。そして、「この子を自然な形で出産したい…」という思いも持てるようになりました。

助産院では「無理をしないこと・体の声を聞くことが大事」ということを教えていただき、この考え方は、幼い頃から大切にしてきた考えとも重なり、心に深く響きました。それまで「頑張るもの」だと思っていた信仰が、日々の生活の中にあるものとして感じられた瞬間でした。

そして迎えた出産の日。強い痛みの中でも、不思議と恐怖より安心感がありました。夫がそばで寄り添い続けてくれました。その結果、無事に娘を出産することが出来ました。後から医師より、「通常であれば緊急対応が必要になる難しい出産だった」と聞かされました。それでも無事に出産出来たことに、大きな力に守られていたような感覚がありました。やはり、明主様に守られていること、浄霊を受けてきたことがこのような結果に繋がったのだと思います。そしてさらに感謝する出来事がありました。

◇

出産後、母乳がなかなか出ず不安な時間がありました。私はこの子を母乳で育てたいと思っていましたので、母乳が出ない間、浄霊を受けながら、「母乳が出るように…」と願っていました。そして最後にもう一度と願った時、なんと母乳が出るようになったのです。私はとても嬉しく心から喜びました。

おかげ様で娘は現在まで順調に育っています。娘の寝顔を見ると、あの頃の自分を思い出すことがあります。そして、あの頃には想像も出来なかった日々を、今こうして家族で過ごせていることに、自然と感謝の気持ちがあ

ふれてきます。

当たり前だと思っていた命や未来は、決して当たり前ではないのだと、娘の誕生を通して深く感じました。

これからも、こうして共に過ごせる日々感謝しながら、家族で支え合い、一日一日を大切に歩んでいきたいと思っています。

この奇跡とも言える浄霊を、是非多くの方に体験していただきたいと思っています。誠に有難うございました。

(福岡県北九州市)

浄化作用

人間には体内の毒素(=不純物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

自然農法

自然農法体験談



川棚支部
いしざか
西坂イマ子(79)

自然農法を実行して40年以上

我が家はお茶の栽培が盛んな地域です
で、何年も夫と一緒に慣行栽培でお茶作りに
励んできました。

当初、私たちは、お茶に消毒をする作業を
していました。すると、夫の身体にジンマシ
ンが出るようになりました。もしこのまま消
毒を続けていたら、もっと影響が出るかもし
れない！と思うとともに、消毒の怖さを体験
しました。

何か他に良い方法はないのだろうか！と考
えていた時、以前から通っていた新健康協会の
川棚支部で「自然農法」のことを聞きました。

肥料も農薬も一切使わず、太陽、水、土の三つ
だけで栽培する方法！正に私たちが探してい
たものはこれだ！と思い、すぐに実行しました。

自然農法を始めてすぐの頃、お茶の収量は
減ってしまい、茶の木も良くない状態にな
りました。それでも年数が経つ毎に自然農法の
状態に馴染んで来たようで、農薬や肥料を使
わなくても育つようになりました。収量は以
前の七十%ではありましたが、農薬による被
害もなく、お茶を頂かれる方にも安心して飲
んで頂けるものとなりました。おかげ様で
四十年以上経った今、自然茶として多くの方
から「おいしい」と言ってもらっています。

そんな私たちも年を重ねて参りましたの
で、お茶の栽培は息子夫婦に世代交代しまし

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて
育てることで、自然力を生かす農法です。

た。息子夫婦はフルタイムで会社勤めをしな
がら、休日はお茶作りに励んでくれていま
す。その上、私たちが継続してきた自然農法
を実行してくれています。本当に「有難い」
の一言に尽きます。

野菜作りや花作りが何よりの喜び

現在、私は自然農法による野菜作りや花作
りをしています。私の畑はもともと田んぼで
した。そのため、土に粘り気があり、野菜作
りには適していなかったため、田んぼを深く
掘り返して、腐葉土や砂を混ぜました。おか
げ様で良い土となり、毎年、大根や人参、ご
ぼう、ネギ等が出来ております。その中でも
一番の自信作は里芋で「坂本里芋」と呼ばれ
ています。

花作りでは、グラジオラスや小菊、シヤク
ヤクなどを育てています。立派に育った花は
川棚支部の床の間に飾って頂けるので、それ
が何よりの喜びとなっております。

私は毎日畑を見に行きまして、今日はどん
な作業をしようかな！と楽しみに眺めており
ます。

これから、自然農法でのお茶や野菜、花
作りを実行していき、多くの方に喜んで頂
きたいと思っております。誠に有難うございま
す。



(床の間に生けられた西坂さんのお花)

美の世界

美によって人間の情操を高め、
生活を豊かにし、人生を楽しく意義
あるものにすることができます。

前田青邨 《童子遊技図》下絵

歴史人物画の名医として知られる前田青邨は、
大正から昭和の日本美術院で活躍した日本画家で
す。岐阜県に生まれ、上京後十六歳の時に梶田半
古に師事しました。画塾では古画の習得だけで
なく写生にも力を入れ、有職故実についての研究
も積んだそうです。その後安田靉彦らの紅児会
に参加し、岡倉天心や下村観山からも指導を受け、
新しい日本画を切り開く新進気鋭の青年作家とし
て注目を集めます。大正時代に入ると朝鮮半島や
中国への旅行、欧州留学なども経験し、文化の異
なる土地の風習、風景、風物を吸収することによ
り一層日本画の可能性を拡張しました。

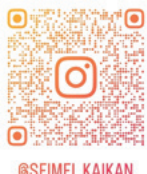
七十年を超える長い画業において、手がけた作
品のジャンルは、代表作の《洞窟の頼朝》のよう
な歴史人物画に限らず、キリスト教の宗教画を思
わせる《羅馬使節》、鮮やかな色彩の《紅白梅》
や墨を生かした《鵜》といった花鳥画まで多岐に
わたります。どのような画題の作品であっても共
通しているのは、リズムカルな群像表現と線描
の魅力ではないでしょうか。本作のように絵の根
幹が露になる下図では、その力量を思う存分味わ
うことができます。

線描の力を獲得するための練習について青邨は
「線描の練習と云つても、これと云つていふこと
もありません。斯くしなければならぬといふこと
もないと思ひます。写生をする事と、古画を見
る事と其の模写をする事でせう」と言います。し
かも写生と古画研究とは次のように両輪でないとい
けません。

「私は写生をする時、其の対象の丸味つまり立
体感を、如何にして線で表さうかと苦心します。
初学の頃は何本も何本もの線を引かなければ出な
いが、倦まず此の線による写生を続けて行くと、

其の内に全容を表すことの出来る唯一の一線を見
出すことが出来るやうになります。つまり物の持
つところの線の急所を把握することが出来るやう
になるのです。けれども、何うしても表すことが
出来ない時があります。其の時は古書殊に白描
のものを見るのです、さうすると、古画が、如何
に至難なところを唯一線でよく表現してゐるかを
知ることが出来ます。(中略)結局、前述のやう
に写生と古画の研究とが線描上達の鍵でせう」
こうして線を通して東洋画の真髄を探究し続け
た青邨は晩年、法隆寺金堂壁画の再現事業や高松
塚古墳壁画模写の総監修として、祈りの形を後世
につなぐ役割も果たしました。

解説 松田愛子



清明会館(美術館)
のInstagram
ははじめました。

清明会館

「祈りをこめて」前期展

期間…令和8年6月9日(火)～12月5日(土)

※清明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535